

令和5年度 京丹波町立蒲生野中学校経営方針



教 育 目 標

「自ら学ぶ意欲をもち、人権を尊び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」

めざす生徒像

○自ら学び考える生徒

○命と人権を尊重する生徒

○心身ともに健康な生徒

令和5年度研究主題

学びを育む京丹波町・蒲生野中メソッドによる実践

～授業力＆学力向上と生徒の社会的自立を目指して～

令和５年度学校経営計画兼学校評価書

京丹波町立蒲生野中学校 <NO. 1>

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）	自己評価	関係者評価
・京都府教育委員会、京丹波町教育委員会の示す方針を踏まえ、公教育の推進に努める。 ・令和５年度「京丹波町教育の指針」「京丹波町教育振興基本計画」「第２期京都府教育振興プラン」「令和５年度学校教育の重点」等に基づく教育活動を推進する。 ・人権尊重をあらゆる教育活動の基盤として、一人ひとりの生徒の可能性を尊重し、その個性と能力を十分伸ばし、変化の激しい社会を自らの力で生き抜いていける学力を身につけさせる。 ・いじめ対策委員会と関係分掌との連携を密にし、いじめを含む問題事象の未然防止に努める。 ・「学びを育む京丹波町メソッド」の徹底を図り、生徒を学習の主体者とし、持続可能な学力向上システムの開発を目指すとともに、学びの基盤となる学習集団の育成に努める。 ・学校教育目標の達成のため、全教職員が共通理解を深め、「チーム学校」として一致協力した実践に努める。 ・実践的な研究・研修を進め、教職員としての指導力の向上と資質能力の向上を図る。 ・小・中の連携を積極的に進め、学びの連続性を高め、一貫した教育内容・教育課程の構築、生徒指導の充実等に努める。 ・家庭や地域社会の期待を真摯に受け止め、学校が地域にできること・地域が学校にできることを積極的に取り入れて、学校・家庭・地域社会の協働によるより良い教育環境づくりに努める。 ・「学びの文化」「誇りある学校」の確立を目指すとともに新たな教育課題（学習指導要領、働き方改革等）を見据えた持続可能な教育活動の構築を図る。	【成果】 教職員間で常に十分な意思疎通を図り、実態の把握と方向性の共有を大切にしながら、本校の課題解決に全力で取り組んだ。 ○人権教育の充実により、互いを認め合い、仲間を大切にする態度と学校文化が育った。 ○「学びを育む京丹波町メソッド」の理念に基づいた環境づくりと授業改善に積極的に取り組んだ。 （R4町質問紙「学校が楽しい」に対し、肯定的回答が前年度比11%UP＝生徒主体の授業・学校生活で楽しく学べた成果） ○キャリア教育の視点と地域連携を重視した蒲生中スタイルの探究的な学びを構築できた。 ○教育相談体制の充実により個々の課題に丁寧に対応できた。 【課題】 感染症対策を基本とした3年間を経て、学校経営全体の見直しを図り、必要で最優先される教育活動に重点を置く一方で、目指す生徒像の実現においては課題が残った。心身のたくましさや自ら考える力、基礎学力の定着について、回復に向けた取組が必要である。 ◆特別活動等の充実を図ることで生徒の主体性を伸ばし、育ち合う集団、高まり合う集団を育成する。 ◆生徒主体の授業づくりと学力の定着について研究と実践を進める。 ◆特別支援教育の体制を一層充実させる。 ◆小中連携、中高連携の充実を図り、地域ぐるみでの教育活動を進める。	1 人権教育の推進 ・確かな人権意識と人権感覚を育て、自他の生命と人権を尊重する生徒を育てる。 ・教育活動全体を通して、仲間を大切にし、育ち合う学校文化を根付かせる。 ・道徳の授業や日々の生活を通して、豊かな道徳性を養う。 ・一人ひとりの資質や能力を伸ばし、個に応じた進路を保障する。 2 生徒指導の充実 ・生徒の個性や良さを見出して適切に評価し、自己肯定感の向上と可能性の伸長を図る。 ・生徒の内面・背景の理解（観察・面接・対話・質問紙等）と情報共有を十分に図って課題解決に組織的に取り組み、成長や発達を支える。 ・関係諸機関との多様な連携のもと教育相談活動を充実させる。 ・アクティオ手帳を活用し、自己管理能力と望ましい生活習慣を身につけさせる。 3 特別活動の充実 ・様々な特別活動を通して生徒主体の学校づくりを進め、育ち合う集団を育成し、高まり合う関係性を構築する。 ・活動の過程を大切にし、多様な経験を通して人間関係形成力と非認知能力の伸長を図る。 ・トライ＆エラーの経験を通して自己肯定感や自信を育み心豊かでたくましい生徒を育てる。 4 指導方法工夫改善による学力向上 ・校内研究体制の充実を図り、全教職員で蒲生野中メソッドを構築し、実践を進める。 ・「何のために学ぶのか」を実感できる生徒主体の授業づくりと、学力の定着について研究と実践を進める。 ・学力診断テスト（質問紙含む）の分析を改善に生かす。 5 特別支援教育の充実（学校体制の構築） ・支援を要する生徒を的確に把握し、ニーズに応じた指導と支援を実現する。 ・通級指導教室の効果的な運営を実現する。 ・コーディネーターを中心に校内外の連携を充実させ、組織的な支援体制を構築する。 ・教育活動全体にユニバーサルデザインの視点を反映させる。 6 新たな教育課題を見据えたチーム学校づくり ・風通しが良く、誰もが働きやすい職員室づくりに努める。 ・働き方改革に向けた意識改革と実践を進める。 ・探究的な学びや体験的な学習の質的充実を図る。 ・小中連携、中高連携、地域連携の充実を図る。 ・学校運営協議会の設置に向けた調整を進める。	【成果】教職員間で十分な意思疎通を図り、実態の把握と指導の方向性を共有しながら、前年度の課題を踏まえ、その解決に取り組んだ。 ○人権尊重を基盤とした教育活動を推進し、互いに認め合い、自他を大切にする心と態度を育むことができた。 ○特別活動の充実と発達支持的生徒指導の視点を大切にした指導で、個と集団の成長を促すことができた。 ○「学びを育む京丹波町メソッド」の理念に基づき、本校の課題に即した授業研究を進め、質的改善が進んだ。 ○教育相談、通級指導教室の増設、特別支援教育の充実により、生徒がより安心して学べる環境づくりができた。 ○キャリア教育の視点を重視した中高地域連携を強化することができた。 【課題】目指す生徒像の実現を追求していくため、さらに工夫した取組が必要である。 ◆特別活動、探究的な学習等の充実を図り、多様な経験と交流の機会を設け、豊かな学びと成長を実現する。 ◆生徒主体の授業づくりと学力の定着・向上について研究と実践を進める。 ◆全ての生徒にとって学校や学級が安心安全な居場所となる取組を行い、成長を促す生徒指導を目指す。 ◆小中高地域との連携を図り、地域ぐるみで切れ目なく育ちを支える教育活動を進める。 ◆防災教育を充実させ、実践力を育てる。	○教職員間の十分な共通理解のもとに生徒の可能性を尊重し、個性と能力の伸長に努められた。 ○生徒の信頼や保護者の感謝も厚い。 ○小中高連携を一層進めて充実発展を期待したい。 ○学校教育目標とめざす生徒像を共有し卒業時を見通して入学からの時々の学びの充実を図ることが大切である。 ○生涯を生き抜く力の育成に努めてほしい。 ○探究的学習の視点を生かした実践を進めていただきたい。 ○一人ひとりの生徒の可能性を尊重し、能力を伸ばしていけるように指導されていることが見受けられる。 ○生徒指導においても個人の良さを見つけて指導に当たっておられる。

評価項目	重点目標	具体的方策	評価						成果と改善点	
			自己評価			関係者評価			自己評価	学校関係者評価
			中間	年度末	年度末	年度末	年度末	年度末		
人権教育	学力充実と進路保障	①学校生活のあらゆる場面で学年の実態に応じて、人権尊重に視点に立った指導を展開し、人権意識の向上を図る。 ②学年別重点目標に沿った人権学習プランを作成し、実践を進める。 ③普遍的な視点と個別的な視点から人権問題について考えさせ、正しい認識を持てる指導を進める。 ④SNS等に関わる人権問題について正しい認識と適切な行動ができる力を育てる。 ⑤常に人権を意識した言動に努め、教職員自らの人権意識を磨くとともに、指導力を高める研修に取り組む。	B		A		A		○学年別重点目標に沿った人権学習を実践できた。 ○人権問題を正しく認識するため、普遍的な課題と個別的な課題(LGBTQ+等)、SNSに関する課題を全校共通で学習する機会を持てた。 ○校内研修を通して同和問題の理解を深める等、教職員の人権認識の向上に取り組めた。 ○小中9年間を見通した人権学習を実現できるように校種間で連携を進めていく必要がある。	○SNS等に関わる人権問題は今後益々増加する。適切な認識と正しい行動が求められる。小中を見通した人権学習が必要である。 ○正しい出会いと実践、9年間を見通した学習計画が重要である。 ○普遍的課題と個別的課題を明確にした指導が大切である。
	豊かな人権感覚を育てる人権学習の充実		C		B		B			
	人権尊重のための技能・能力の育成		C	B	B	B	B	B		
	人権尊重を基盤にした環境作り		B		B		B			
	「自他の命・人権」と「仲間」を大切にする文化の確立		B		A		A			
生徒指導	学習基盤となる基本的生活習慣の確立	①教職員が同じベクトルで指導し、生徒一人ひとりの内面及び背景理解に努める。（観察法/面接法/質問紙法等） ②生徒指導の三機能を重視し、日常生活に自主性を伸ばす活動を取り入れ、個と集団の力を伸長する。 ③特別活動の充実を通して「誇れる自分・誇れる学校づくり」を目指す。 ④手帳を活用し、学校生活および家庭生活において基本的な生活習慣を確立させ、自己管理能力と自ら課題に立ち向かう生徒を育成する。 ⑤学習に向かう集団を育成して学習意欲の向上を図り、希望進路を実現できる力を身につけさせる。 ⑥不登校生徒に対し、校内機関および関係諸機関との十分な連携のもと、生徒の社会的自立を目指し、チーム学校として課題解決に取り組む。 ⑦SNS等に関する情報モラルを身につけさせる。 ⑧生徒と協議しながら、時代に即した学校のルール作りを段階的に進めていく。	B		A		A		○組織的な指導体制のもと迅速かつ綿密に生徒の状況と指導方針を共通確認し、課題予防的生徒指導・早期発見対応に取り組めた。 ○校内外の機関で連携し、不登校生徒の社会的自立を目指した支援・指導に粘り強く取り組めた。 ○特別活動や多様な体験的学習を通して、育ち会う集団、学び会う集団作りに取り組めた。 ○生徒が自発的・主体的に考えて行動できるように、全ての生徒に対して発達支持的な指導や関わり方を大切にした教育活動を進めていく必要がある。	○校則は世間の易い動向に流されないことが大切である。 ○今の時代、生きづらさを抱えている生徒もおり、人権が生きている学校学級づくりが重要である。 ○教職員集団が一枚岩となり、創意工夫した実践を進めることが大切である。
	自己管理能力の継続的、発展的な育成		C	B	B	B	B	B		
	豊かな人間性をもったたくましい生徒の育成		B		B		B			

評価項目	重点目標	具体的方策	評価						成果と改善点	
			自己評価				関係者評価		自己評価	学校関係者評価
			中間		年度末		年度末			
特別活動	生徒の自主性と実践力の育成	①生徒会本部を中心に、生徒が主体的・自治的に取り組む機会を増やし、学年・学級ごとに育ち合う集団作りを行う	B		B		A		○集合型の活動機会が増えて生徒会活動や学級活動、行事に伸び伸びと取り組むことができ、生徒の意欲や学校全体の活気の高まりに繋がった。 ○特別活動を通して、挑戦や失敗、達成感等から生徒が体験的に学び、真の自己肯定感（ありのままの自分を肯定）を持てるような支援・指導を工夫し、たくましく生きる力や社会性を育む必要がある。	○学級を基盤に主体的な活動ができています。 ○育ち合う集団づくりと自己肯定感を育む指導が進められている。 ○生徒会本部役員を中心に生徒が自主的に相談して取り組んでいる。 ○トレーニングセンターでの宿泊学習はよい取組である。
	望ましい集団活動の実現	②生徒会本部と専門委員会の連携を密にし、専門委員会活動の活性化を図り、生徒会活動を充実させる。 ③基礎集団である学級を軸に、自己肯定感と達成感を高め合う集団活動を充実させる。	C		B		B			
	自己理解・他者理解を深め、共に高まり合う集団の育成	④互いを高め合える異年齢集団による活動を充実させる。（専門委員会・縦割ブロック活動等） ⑤学習や生活にリンクした取組を増やし、活気と魅力あふれる学校づくりを進め、人間関係を形成する力と非認知能力を育む。 ⑥生徒の活動を地域にも広げていく。（清掃活動等）	B		A		A			
学力向上	主体的に学習に取り組む生徒の育成	①学びを育む京丹波町メソッドに基づく授業改善を推進し、本校独自の課題を踏まえた「蒲生野中メソッド」を構築する。（校内研究体制の強化）	C		B		B		○「学びを育む京丹波町メソッド」を基本に、本校の課題に立脚した授業研究に全教職員で取り組み、質的改善を図れた。（授業公開週間・南丹局指導主事要請訪問・夏期職員研修・京丹波町メソッド授業研究・各データ分析等） ○学力向上において本校独自の具体的方策を提示し、効果的な学習班づくりや基礎基本の定着と書く力の向上に取り組み、作文の入賞等、一定の成果が見られた。 ○家庭学習習慣は概ね定着しているが、質的向上を図るための工夫が必要である。 ○生涯学習の観点からも読書指導を工夫し、読書習慣を身につけさせたい。	○一斉指導であっても個に応じた指導は常に念頭に置いておきたい。 ○家庭学習は前年度より意欲的に取り組めたようだ。 ○指導と評価の一体化と、ふり返りの取組が進められている。 ○「集団と個」の視点を大切にしている。 ○以前とは違い家庭学習も頑張っているように見受けられる。休日には役場の「こだち」で勉強している姿を見る。
	授業改善	②シラバスを効果的に活用し、指導と評価の一体化を図るとともに、個に応じた指導と積極的な評価で一人ひとりの生徒の学びを丁寧に見取る。	B		B		B			
	言語活動の充実	③生徒と教師で目標を共有し、明確な「めあて」に基づいた授業を目指す。	C		B		B			
	学び合う雰囲気の醸成	④生徒主体の授業づくりと基礎基本の定着を両立させるような単元計画を工夫する。	C		B		B			
	家庭学習の充実	⑤ICT活用と書くことのハイブリッド授業で「書く力」を向上させる。 ⑥各教科において、学びの「ふり返り」の質的向上を目指す。（単元のふり返りを文章化） ⑦誰もが安心して学習や発言ができる親和的な学級づくりを進める。 ⑧学習に向かう雰囲気作りを生徒主体で進める。 ⑨各種学力テスト結果分析を指導の改善につなげる。	C		C		B			

評価項目	重点目標	具体的方策	評価						成果と改善点	
			自己評価				関係者評価		自己評価	学校関係者評価
			中間		年度末		年度末			
特別支援教育	支援を要する生徒の実態把握とニーズに応じた指導と支援の実現	①全教職員が支援を要する生徒の実態と課題を把握する。 ②小学校や保護者、関係専門機関等との連携および相談活動の充実を図る。 ③移行支援シートを効果的に活用するとともに、個別の教育支援計画および個別の指導計画に基づいた支援と指導を行う。	B		A		A		○支援を要する生徒の状況を全体で把握し、支援員や関係機関等と連携しながら、全教職員できめ細かい支援・指導ができた。 ○通級指導教室の増設で、障がいや特性のある多くの生徒が通いやすく安心して学習できる環境が確保でき、学校生活への意欲向上に繋がった。 ○特別支援教育の研修を進め、ユニバーサルデザインの視点を大切にした教育活動を推進できた。	○全教職員が支援を要する生徒の状況を把握できていることはとても大切なことである。将来の社会的自立を目指して、今、学校で自立した活動ができていることが大切である。 ○全教職員で一貫したきめ細かい指導がされ、ユニバーサルデザインの視点が重視されている。 ○目配りがよくできている。
	通級指導教室の効果的な運営と指導	④ユニバーサルデザインの視点で教育活動全体を進め、どの生徒にもわかる授業づくりを工夫する。	B	B	B	B	A	A		
	校内外の連携の充実と組織的な支援の実現	⑤社会に適應する力の育成および社会的自立を目指した指導・支援やトレーニングを進める。 ⑥一人ひとりの能力や個性を伸長する適切な進路指導と進路実現を目指す。	B		B		B			
	教育活動全体にユニバーサルデザインを反映	⑦学習支援員の効果的な活用を進める。	B		B		B			
新たな教育課題を見据えたチーム学校づくり	風通しが良く、誰もが働きやすい職員室づくり	①「お互い様」の精神で、いつでも誰にでも遠慮なく相談でき、同僚性が高く、お互いに助け合える親和的な職場を作る。	B		B		B		○相談や助け合いができる環境を広げ、互いの良さを認め、支え合う職場風土を作ることに努めたい。 ○概ね19:30退勤ができた。 ○道徳の研修を進め、担任以外の授業の実施、日常的な道徳的価値の投げかけ等、全体で道徳教育を進めた。 ○役場、須高と連携したキャリア教育（職場体験・菊作り・須高セミナー）、関大と連携した防災学習等、体験的、探究的学習の充実を図れた。 ○次年度に向けて中高地域連携型の探究的学習（GREEN SCHOOL 構想）、学校運営協議会導入の準備が整った。 ○防災において教職員生徒ともに実践力をつけたい。	○19:30退勤は大きな進歩である。 ○道徳の教材事例は生徒の意識とかけ離れていることがあるので、生徒の意識に合わせて指導することが大切である。 ○小中高・地域との連携により、生徒の活動がよくわかるので良い。
	働き方改革に向けた意識改革と実践	②元気に出勤し、笑顔で退勤できるよう自らの時間管理と健康管理に留意する。（19:30退勤） ③「特別の教科 道徳」の授業を要とする道徳教育の充実に向けた研修を進め、生徒の道徳性の涵養に力を入れる。	B		B		B			
	道徳教育、探究的な学習や体験的な学習の質的充実	④各学年において、キャリア教育の視点を生かした「総合的な学習の時間」の深化を図る。（町内の教育資源を有効活用する。）（須知高校との連携のもと「菊づくり」に取り組む。）	B	B	A	B	A	B		
	小中連携、中高連携、地域連携の充実	⑤須知高校との連携をより強化する。（中高連携授業、須高セミナー等） ⑥学校運営協議会の設置に向け、環境整備を行う。	B		B		B			

